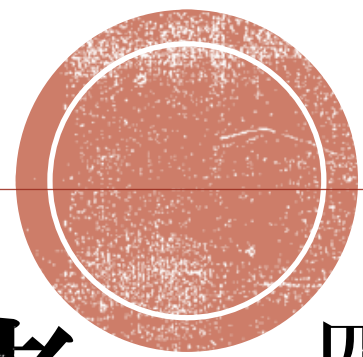




四国ブロック再犯防止シンポジウム関連イベント

「やり直せる社会」を一緒に考えるディスカッション

本年10月10日（土）に、香川大学、四国学院大学、徳島文理大学の大学生にご参加いただき、2つの模擬事例を用いて再犯防止について考えていただくグループワークを実施しました。

最初の事例は、直前にリストラにあった人が、食べるのに困ってコンビニでおにぎりを盗んだという事例で、その人が罪を犯した原因は何か、個人の問題と、社会の問題の両方の側面から考えていただき、どうすれば再犯に及ばないかなどについて話し合っていました。

次の事例は、傷害により服役していた人が、仮釈放後に、就職できなくて自暴自棄になっているという事例でしたが、その人が今一番必要としていることや、自分が雇用主として雇うことができるか、雇えるとしたらその条件はなにかなどについて話し合っていました。

グループワーク後、各班で話し合った内容を発表いただきましたが、最初の事例では、本人が誰かに頼ることができていなかった、そもそも頼る先があることを知らなかった、支援施設・制度などの広報が足りなかったのではないかなど意見が出た上、次の事例では、服役中に資格を取得するなどしていたことに触れ、その努力をまず認めて褒めることが必要ではないか、雇用主としては、雇いにくいという事情も分かるので、研修期間としてお互いに準備期間を設けるなどの取組などもあればいいのではなどの意見が出ていました。

若い世代の人たちが、模擬事例を元に再犯防止について自ら考え、また、他の人の様々な意見も聞くことによって、更に知識と関心を深める機会となっているのではないのでしょうか。

